

「農業イノベーション大賞 2021」の受賞者が決定

2021 年 5 月 22 日、農業情報学会ほか関係団体が主催・共催する「農業イノベーション大賞 2021」の受賞者の表彰式、及び受賞講演会が、農業情報学会年次大会の一環として開催されました。

（新型コロナウイルスの影響で、オンラインでの開催となりました。）

農業イノベーション大賞 2021WEB : <https://www.jsai.or.jp/年次大会等/農業イノベーション大賞>

農業は、最も長い歴史を有する産業であり、人類の生存の基盤となる産業です。従来も何度か革新を経験してきた産業でもあります。AI や IoT などの情報通信科学技術、ゲノム編集や遺伝子組み換えなどの生命科学技術の急速な発展により、現在、大きなイノベーションの萌芽がいくつも現れています。そこで、農業情報学会が主導して、先駆的で挑戦意欲のある農業企業・団体・個人の実践的活動を表彰し、農業内や農業外産業にインパクトを与え、さらに農業のイノベーションを促進することを目的とした「農業イノベーション大賞」を選考し、表彰致しました。

■対象と基準

以下の活動に対して優れている方を対象としました。

- （１）従来の農業分野における「常識」にとらわれない、将来性のある斬新な発想に基づいた実践的な活動を行っていること。
- （２）情報・知識・ノウハウや情報通信技術 ICT の活用を行っていること。

■選考委員会による公正な選考により、以下の受賞者が決定しました。

 優秀賞（ビジネスモデル分野）	
	有限会社 穂海農耕 代表取締役 丸田 洋 （新潟県上越市）
	ICT 活用による大規模稲作経営と人材育成
新規就農による農地集積が困難な土地利用型農業（稲作）において、法人設立以来 15 年間で県内屈指の稲作大規模経営体に成長させ、業務用に特化した事業展開を行ってきた経営実績・挑戦は、高く評価できる。各種情報システムを活用し営農情報の収集・活用を行い、ICT を積極的に導入・活用して人材育成に取り組んでいる点も評価できる。こうした受賞者の「ICT 活用による大規模稲作経営と人材育成」は、農業イノベーションの実践的活動として優秀賞（ビジネスモデル分野）に値する。	



優秀賞（ビジネスモデル分野）



前田農産食品株式会社 代表取締役 前田茂雄（北海道中川郡本別町）

スマート農業は楽しくお客様と共有！

「顧客と共に新たな農産食品開発に挑戦する農業生産法人」を目指し、ICT も活用しつつ様々な六次産業化に取り組んでおり、パン・麺・菓子職人と連携した小麦生産販売、電子レンジ専用ポップコーン「北海道十勝ポップコーン」の生産販売などのアグリフード・バリューチェーン構築は高く評価できる。また、北海道小麦キャンプ、まわり迷路、美味しいパン可視化等の試みもユニークで評価できる。こうした受賞者の「スマート農業は楽しくお客様と共有！」は、農業イノベーションの実践的活動として優秀賞（ビジネスモデル分野）に値する。



優秀賞（新技術分野）



株式会社アイファーム 代表取締役 池谷伸二（静岡県浜松市）

ブロッコリー生産技術研究開発とビジネスモデル構築

耕作放棄地等を活用した新規就農・規模拡大により、創業 12 年で県内最大級のブロッコリー生産法人となった経営実績・挑戦は高く評価できる。こうした事業展開の中で直面する様々な生産管理面での課題解決のため、各種生産管理システム導入やドローン画像分析によるブロッコリー収穫適期判断等の研究開発を関係機関と共同して果敢に推進していることも評価できる。こうした受賞者の「ブロッコリー生産技術研究開発とビジネスモデル構築」は、農業イノベーションの実践的活動として優秀賞（新技術分野）に値する。



優秀賞（人材育成/新技術分野）



青森県立名久井農業高等学校 教諭 松本理祐、生徒 小泉麻紘

東光鉄工株式会社 U A V 事業部 シニアマネージャー 鳥潟 與明

農業用ドローンを活用した果樹の溶液受粉

農業高等学校の農業技術改善案と企業のドローン技術を融合させ、高所作業回避や作業時間低減といった果樹栽培の作業改善につながる技術の開発実証を行った挑戦・実績は高く評価できる。さらに、実際に農家に提供できる技術としてビジネスモデルを構想し事業化を検討している点も評価できる。こうした受賞者の「農業用ドローンを活用した果樹の溶液受粉」は、農業イノベーションの実践的活動として優秀賞（人材育成/新技術分野）に値する。



選考委員会特別賞



木下農園 代表 木下良一（岡山県倉敷市）

データ解析に基づいたスイートピー生産技術

永年に渡り環境データ自動収集システム構築や環境制御コントローラ製作等に取り組み、栽培データと環境データの紐づけを行い、栽培管理改善に活かしてきた実績・挑戦は高く評価できる。さらに、これらのデータに基づき、スイートピーの落蕾の発生要因を解明し、その解決方法を見出したことも評価できる。こうした受賞者の「データ解析に基づいたスイートピー生産技術」は、農業イノベーションの実践的活動として選考委員会特別賞に値する。



選考委員会特別賞

三基計装

三基計装株式会社 代表取締役 稲垣嘉秀（東京都板橋区）

複合制御盤のリノベーションによる I C T 化

永年に渡り大学や公設試等の研究成果を積極的に活用し従来の制御ロジックと融合させ、温室管理の I C T 化の促進や省力高度化技術を導入促進する活動を行ってきた実績・挑戦は高く評価できる。特に、既製品の利活用等により開発費を圧縮し製品価格を抑える等、中小規模園芸経営における I C T 活用に寄与している。こうした受賞者の「複合制御盤のリノベーションによる I C T 化」は、農業イノベーションの実践的活動として、選考委員会特別賞に値する。

選考委員長 講評

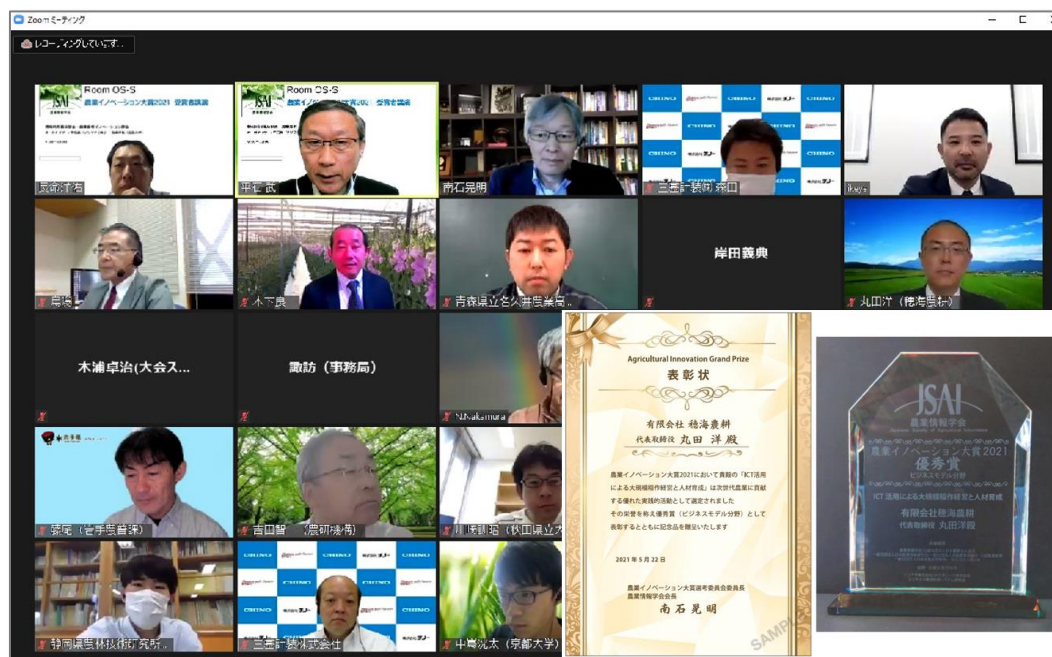


南石 晃明
九州大学 教授
農業情報学会 会長

農業イノベーション大賞 2021 では、特徴のある応募・推薦を多数頂きました。選考過程においても、多角的な観点から総合的な議論を行い、公正かつ熱心な審議を進めました。その結果、優秀賞 4 件、選考委員会特別賞 2 件を授与することいたしました。何れも、大変ユニークで興味深い農業イノベーションの実践的活動とし高く評価できるものです。

農業イノベーション大賞 2022 の募集（締切：2022 年 1 月）も予定しています。農業イノベーション大賞では、過去の実績よりも、現在進行形のイノベーションや将来性を重視しています。日々、果敢に挑戦をされている方々の応募・推薦をお待ちしております。

新型コロナウイルスの感染防止のため、オンラインによる授賞式の様子



■選考委員（敬称略）

青山浩子（農業ジャーナリスト・新潟食料農業大学講師）
 遠藤隆也（ALFAE・運営委員、M-SAKU ネットワークス代表）
 大政謙次（高崎健康福祉大学農学部長、東京大学名誉教授、日本農学アカデミー会長）
 岸田義典（株式会社新農林社代表取締役、農業情報学会副会長）
 黒谷 伸（（一社）全国農業会議所情報事本部長）
 南石晃明（九州大学教授、農業情報学会会長、選考委員長）
 平石 武（ソリマチ株式会社取締役、農業情報学会副会長）
 星 岳彦（近畿大学教授、農業情報学会副会長）
 山田優（農業ジャーナリスト、日本農業新聞特別編集委員）

■共催機関

農業情報学会、公益社団法人日本農業法人協会、
 一般社団法人日本経済団体連合会（経団連）、一般社団法人全国農業会議所・全国農業新聞
 一般社団法人日本食農連携機構、一般社団法人 ALFAE（アジア・太平洋 食・農・環境情報拠点）

■協賛・出展企業団体等

ソリマチ株式会社、JA 三井リース株式会社、ユビキタス環境制御システム研究会(UECS)

本件に対する問い合わせ

農業イノベーション大賞 事務局（農業情報学会 事務局内）
 〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 新共立ビル 2F 株式会社共立
 TEL 03-3551-9891（代表）、FAX 03-3553-2047、E-mail: sec@jsai.or.jp